

ナガレタゴガエル *Rana sakuraii* Matsui et Matsui

【選定理由】

本種は、流水産卵性のアカガエル属の1種であり、分布の詳細には不明な点が多い。本県では、1999年にはじめて2個体が記録され(榊原, 2000)、以後の記録も天竜川水系の一部に限定されている。隣接する他県からの個体の流入が見込める状況になく、分布域の狭小性が県内の個体群を維持するうえで重要な懸念材料となっている点から、絶滅危惧 I A類と評価された。

【形態】

頭胴長 40~60mm。背中に背側線を持ち、外鳴嚢はない。体色は茶褐色から赤褐色。幼生は最大で全長 30 mm ほどで日本産アカガエル属の中では小型である。卵径は大きく 3 mm ほどある。卵数は 130~250 個ほど。近縁のタゴガエル及びネバタゴガエルによく似るが、後肢趾間のみずかきは非常によく発達して切れ込みが浅い。繁殖期には雌雄とも体側および腿の後面の皮膚が著しく伸長してひだ状となる。ただ、この皮膚のたるみはタゴガエルやネバタゴガエルにもしばしば生じるため、この形質でこれらの種を識別することはできない。



豊根村, 2018年3月4日, 島田知彦 撮影

【分布の概要】

日本固有種。本州中央部(関東、中部、北陸、近畿、中国地方)の山地溪流付近の森林帯に分布する。本県に隣接する静岡、長野、岐阜、三重各県でも生息が確認されている。本県下では豊根村(旧富山村)だけで確認されている。

【生息地の環境／生態的特性】

伏流水中で産卵するタゴガエルやネバタゴガエルに比べ、やや幅の広い河川の本流中で産卵する。豊根村の生息地点は、川幅が最大 1.8m、最大水深 48cm である。繁殖は 2~4 月に山間溪流で行われる(榊原, 2000)。産卵は比較的深い水中で行われ、卵塊は岩石に付着する。幼生は水底の石の間で生活し、6 月に変態する。成体は産卵場所付近の水中で越冬する。

【現在の生息状況／減少の要因】

愛知県では天竜川水系の一部以外に記録がない。新たな生息地が発見される可能性もあるが、広域に広がることは考えられない。林道建設や砂防ダム建設などに伴う生息域の減少により、県内での絶滅の可能性もある。

【保全上の留意点】

生息環境として、繁殖・越冬のできる水域や、幼体が上陸して生活できる溪流付近の豊かな林床が必要であり、溪流沿いの建設工事、自然林の伐採等において、十分な調査と検討を要する。

【特記事項】

近縁のタゴガエル、ネバタゴガエルと誤認されやすいため、調査時に注意が必要である。県条例に基づく指定希少野生動物種に指定されている。

【引用文献】

榊原圭志, 2000. 愛知県産ナガレタゴガエルの初記録. 豊橋市自然史博物館研究報告 No.10: 45-47.

(島田知彦)

県内分布図

